2nd Circular　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 2021年 9月10日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

テキスト

自動的に生成された説明**第21回東京科学シンポジウム**

**テーマ： コロナ危機の時代を生きる**

**― 科学・人権・市民的連帯 ―**

**開催日時：2021年11 月27日（土）～11月 28 日（日）**

**開催方式：オンライン（zoomを使用）**

**主　 　催：**日本科学者会議東京支部

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第21回東京科学シンポジウム 2ndサーキュラー発行にあたって

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　実行委員会事務局長　佐久間英俊

7月10日に発行した1stサーキュラーで、私たちは今回の東京科学シンポジウムのメインテーマを「コロナ危機の時代を生きる―科学・人権・市民的連帯―」とし、11月末にオンラインで開催することを決めて、分科会の開設を呼びかけました。

　その後の2か月間を振り返ると、日本政府はオリンピック・パラリンピックを強行開催し、コロナ危機を深刻化させました。感染症はさらに広がり、新規感染者数は最高記録を日々更新しています。人の命より経済効果やIOCとの関係を重視した失政は、誰の目にも明らかになりました。お隣の神奈川県では首相が肝入りで応援した候補が落選しましたが、コロナ対策の失敗も一因と言われています。こうした情勢は、今回のシンポジウムのテーマが日本と世界が直面している時代の要請に合致していることを示していると思います。

　1stサーキュラーの分科会開設の呼びかけに応えて17件の応募があり、開設されました。また特別報告では、コロナ危機の実態報告とジェンダー平等問題という２つのテーマを選び、いま準備を進めています。

　オンライン開催は交流不足やITトラブルの可能性などの弱点もありますが、逆に、自宅等から気軽に参加できる、開催費用が安く済み参加費や交通費もかからないなどの利点もあります。IT操作は苦手だという会員もおられるでしょうが、やってみると案外簡単なものです。これを機会に挑戦してみてください。私たち実行委員会がサポートします。

　この2ndサーキュラーでは、分科会の発表者を募集します。多くの会員が臆することなく分科会発表に応募され、問題意識や日頃の研究の成果、運動などの取り組みを披露いただきますようお願いします。また私たちはこのシンポジウムを市民とともに成功させたいと考えています。非会員の参加も歓迎しますので、お近くの市民も誘ってご参加ください。

１．特別報告　　11月27日（土）午後

**1.** 稲葉剛さん（一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事・認定NPO法人ビッグイシュー基金共同代表・立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科客員教授その他）

　「コロナ禍における生活困窮者支援の現場から」

**2.** 特別報告2　＜ 依 頼 中＞

メインテーマを具体化する特別報告の2本目は、ジェンダー平等問題をテーマにした報告を入れる予定で、現在調整しています。

２．分科会　11月27日（土）午前、　28日（日）午前、午後

【１】分科会名：日本におけるコロナ禍の現状と課題

**・設置責任者**：米田貢（中央大学分会）

**・連絡先：**myoneda(at)tamacc.chuo-u.ac.jp ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

**・設置趣旨：**日本では、COVID19の感染拡大の第5波の到来によって、連日1万人を超える感染者が確認される事態に陥り、東京都では多くの感染者が入院できないまま命の危険に晒される「自宅療養」を強制されている。この医療崩壊は、日本政府の感染症対策の失敗がもたらした人災である。本分科会では、日本における人災としてのコロナ禍のもとで、医療現場だけでなく家庭、学校、職場、地域でどのような問題が発生しているのかを多面的に解明する。

【２】改憲発議阻止の課題を考えよう－新型コロナウイルス・日本パンデミックと改憲発議策略－

**・設置責任者：**金子勝（立正大学分会）、中野貞彦（武蔵野通研分会）

**・連絡先：**s.nakano(at)d012.dant2.jp（中野） ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

**・設置趣旨：**2021年6月11日の参議院本会議で、「日本国憲法の改正手続に関する法律の一部を改正する法律案」が成立し、改憲問題は、新たな段階を迎えた。今後の改憲問題の焦点は、憲法審査会での改憲案の審議及び採決、そして、国会での改憲発議をめぐる攻防に移ることになる。自由民主党政権は、新型コロナウイルス・日本パンデミックを利用して、日本国憲法の中に「緊急事態条項」や「自衛隊条項」を取り入れることを柱とする改憲案を掲げて、改憲発議を図ってくると思われる。改憲反対運動も、新たな展開の課題を抱えることになったので、どのような改憲発議阻止の運動に取り組んだらよいのかを、みなさんと検討したいと考えている。

【３】平和研究の現在

**・設置責任者：**真嶋麻子（個人会員）

**・連絡先：**asacom0413(at)gmail.com ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

**・設置趣旨：**現在の世界には、軍事的威嚇、基地問題、核開発、テロリズム、貧困、差別、経済不安、感染症、地球環境の危機といった様々な形態での暴力が存在している。平和研究は、歴史・政治・文化・思想・運動・科学技術・地域研究などの様々なアプローチでこうした課題を探求してきた。

これをふまえて、本分科会では、現代世界の「非平和」の実相を分析し、それとのたたかいの現状を議論していきたい。議論を通じて、いま探求されるべき「平和」とは何か、そのためにはどのような条件が必要か、そして平和研究の課題とは何か、について検討していきたい。

【４】コロナ禍における大学院生の研究と生活

**・設置責任者：**吉村さくら（中央大学院生分会）、峰尾菜生子（中央大学院生分会）

**・連絡先：**natsume1905(at)gmail.com（吉村）、neo.mine0705(at)gmail.com（峰尾）

 ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

**・設置趣旨：**本分科会では、コロナ禍で大学院生が研究者として成長する機会として、何が失われ、何を得たのかを考える。

当日は、コロナ禍での研究生活について報告と、大学院生全体の研究・生活実態に関する報告を予定している。学会報告、論文提出、調査などフォーマルな活動から、研究室での院生同士の交流などインフォーマルな活動まで取り上げて、コロナ禍前後の研究生活の変化に着目して議論する。

【５】コロナ禍の女性の困難を探る（仮）

**・設置責任者：**中島明子（J分会)、姉歯曉（駒沢分会）

**・連絡先：**mamanotanuki(at)yahoo.co.jp（中島） ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

**・設置趣旨：**全国女性研究者・技術者グループは、昨年12月の総学分科会で「新型コロナ禍における女性研究者・技術者の困難と課題」のテーマで、大学における女性やマイノリティーの研究者への影響と、どのような支援が行われたのかを取り上げ、今年4月「はづきの会」では海外の事例も含め大学の状況を追究しました。今回は女性研究者の困難の背後にあるジェンダー問題と様々な支援と方向性について、さらに掘り下げて考えてみたいと思います。

【６】リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流（part5）

**・設置責任者：**長田好弘（武蔵野通研分会）、中野貞彦（武蔵野通研分会）、橋本良仁（高尾分会）

**・連絡先：**s.nakano(at)d012.dant2.jp（中野） ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

**・設置趣旨：**リニア記事の回数と内容は、この数年で格段に広がった。外環道工事での道路陥没被害は、大深度法適用の深刻な問題を提起し、リニア計画への重大な警告ともなっている。熱海の土石流災害は残土処理の安全問題をあらためて浮き彫りにした。朝日新聞社説（2021.7.5）は、「JR東海と国交省はいったん立ち止まって事業の是非を再検討し、地元と真摯に対話することが求められる。」と主張している。所属自治体や異なる環境の住民が要求を異にすることは当然であり、その要求実現のために「リニア工事差し止め」の声が広がっている。川勝氏が「リニアより水を」の要求を掲げて知事選で圧勝したように、リニア問題で顕著となった地域要求実現のために連帯して、その運動が「計画の撤回と中止」を求める運動に大きく合流する研究集会にしましょう。

【７】科学技術の現状批判―日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part13 ―

・**設置責任者**：長田好弘（武蔵野通研分会）、久志本俊弘（大阪支部）、矢作英夫（武蔵野通研分会）

・**連絡先**：to4ksmt(at)yahoo.co.jp（久志本） ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

・**設置趣旨**：菅政権は、専門家の提言を無視したコロナ対策で混乱をきわめ、さらにオリ・パラ強行で感染爆発を引き起こしている。科学・技術の現状批判が市民運動において納得のいくものであるためには、私達の情報発信や活動の在り方にも改善が問われており、この間の活動をふり返って今後の課題を明らかにしていきたい。「骨太方針2020」はデジタル・ガバメントの断行を最優先政策課題と位置付け、データの蓄積・共有・分析に基づく行政サービスの質の向上こそが行政のデジタル化の真の目的であるとし、デジタル庁の創設やIT基本法改正を強行しようとしている。コロナ禍をもっけの幸いと言わんばかりのデジタル化社会への暴走に対してその危険性を暴くことが重要となっている。

**キーワード：**○科学(者)と政治、○コロナ対策の検証、○個人情報保護、○働き方、○ジェンダー、○進む富の一極集中、○軍事費最大更新、○社会保障縮減、○サイバーセキュリティ、○気候危機、○自然との共生、○一極集中からの転換、○市民のスポーツ

【８】科学・技術サロン―日本の科学・技術の現状とロマンを語るpart14―

・**設置責任者**：長田好弘（武蔵野通研分会）、松永光司（武蔵野通研分会）

・**連絡先**：matsunaga\_mitsushi(at)hotmail.com（松永） ※メールを送る際は(at)を＠に代えて下さい

・**設置趣旨**：パンデミックは、日本社会の諸矛盾を明るみに出し、菅政権の失政ははかり知れない苦痛を国民に押しつけている。そればかりか、違憲・違法な日本学術会議会員任命拒否を行ない、学術会議の「役割」の答申を強制し、日本学術会議がその組織的、科学的見識をもって、国民の痛苦を少しでも軽減しようと願っても、「大変忸怩たる思い」（梶田学術会議会長）の状態へと押し込めた。科学を無視し権力に頼る政治姿勢の一端である。いま国民は研究者に何を求めているのだろうか。パンデミックによる当面の痛苦の軽減と安寧な生活への方途を科学的知識に基づいて共に求めることではないだろうか。研究者にはそのために必要な、科学の正しい発展のための研究条件の確保が必要であり、それは民衆と共に進むものでなければならない。個々の問題で意見の相違が生じようとも、リスペクトをもって率直な意見交換をおこないましょう。

**キーワード：**○パンデミック下研究教育現場、○国産ワクチンの開発、○国大協が18の提言、○日本の科学技術イノベーション危機、○安全保障技術研究推進制度と大学の実状、○デジタル庁創設、○AIネットワーク社会

【９】任命拒否問題の今－学術会議と科学者コミュニティ－

・**設置責任者**：井原　聰（個人会員）

・**連絡先**：s-ihara075(at)nifty.com ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

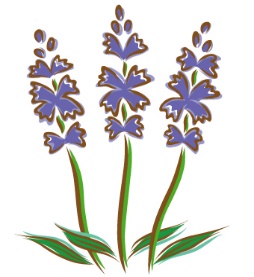
・設置趣旨：菅首相が6人の日本学術会議（SCJ）会員候補の任命を拒否した暴挙からすでに1年近くが経過した．学協会，市民団体などからの空前の数の抗議声明にもかかわらず，今度は，拒否理由の説明もないまま，個人情報の開示請求に不開示を決定した．この間SCJは違法な運営を余儀なくされている．総選挙の結果を見据えるのは困難だが今後の政局と関わり，任命拒否問題やSCJの在り方への介入が予想される．SCJと私たちの在り方，特に学問の自由，研究の自由と科学者コミュニティの問題としても掘り下げてみたい．JSAの幹事会は「任命することを求めるアピール」署名を行うとしている．この活動とも連携し．新しい切り口を検討したい．

※署名に関して、関係団体との共同について決定事項のように読める記述となっておりましたが、サーキュラー発行時点においては共同のよびかけを行った段階でした。誤解を生む表現箇所について実行委員会として関係者にお詫びし、上記のように訂正いたします。

【10】コロナ危機下における高等教育・研究を考える

・**設置責任者**：佐久間英俊（中央大学分会）

・**連絡先**：sakuma(at)tamacc.chuo-u.ac.jp ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

・**設置趣旨**：新型コロナウイルス感染症は職場や社会、生活を一変させた。高等教育・研究機関においても、遠隔授業への切り替え、教育研究施設の利用制限、在宅勤務の奨励と遠隔会議など、学びや働き方が大きく変わった。

日本政府はIT教育を手放しで推奨するが、現行の遠隔授業には課題も多い。加えて、留学生関連科目等では非常勤講師の不当解雇や差別も起きている。

コロナ危機が長びく中、現場で起きている問題を解決し、必要な教育や研究条件をどのように保障していくのか、参加者とともに考えたい。

【11】非正規教職員の労働運動のこれからを展望して

・**設置責任者**：衣川清子（個人会員）

・**連絡先**：kinu\_k716(at)yahoo.co.jp ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

・**設置趣旨**：雇用の安定をめざして2013年4月から施行された改正労働契約法とそれ以降の推移は、非正規教職員の労働運動を前に進めると同時にいくつかの問題も提起した。多くの労働者が無期契約に転換できた一方で、無期転換を嫌う企業による更新上限付与、「委託」「請負」としての労働者性の否定、恣意的な就業規則改定による労働条件引き下げ、均衡・均等待遇の否定の動きが見られる。こうした逆風にどう立ち向かっているか、たたかいの現状と展望を現場から報告してもらう。

【12】文学はパンデミックをどう描いてきたか―内外の文学作品鑑賞の交流会―

・**設置責任者**：風見梢太郎（武蔵野通研分会）

・**連絡先**：kazami(at)big.or.jp ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

・**設置趣旨**：カミユの『ペスト』をはじめ、疫病の大流行との闘いを描いた多くの優れた作品があります。圧倒的な死の恐怖の中、疫病との闘いを生き延びてきた人類の足跡を、文学作品の中にさぐってみたいと思います。今回の新型コロナウィルスの蔓延による国民の困苦を描いた作品にも読むべきものがあります。話題提供の報告のあと、参加者が自由に発言できる交流会形式にしたいと考えています。

【13】自然科学の進展を俯瞰するII

・**設置責任者**：青木和光（国立天文台分会）

・**連絡先**：aoki.wako(at)gmail.com ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

・**設置趣旨**：自然科学の各分野で著しい進展がある一方、専門化が進んでいるため、科学者の間で必ずしもそれを共有しにくい状況があるのではないでしょうか。専門の異なる研究者が集まる日本科学者会議の特色をいかし、各分野での進展を研究者個人の視点でみつめなおし、それを交流することで自然科学の潮流をつかむことを目標にします。分科会では、3人程度からそれぞれの分野での顕著な進展とその特徴や背景を報告してもらい、参加者にも各分野の状況を発言いただく時間をとる予定です。また、コロナ禍のなかで研究をめぐる環境が激変し、それが今後の研究活動にどう影響していくのか、という課題も議論したいと考えています。報告・発言の希望を歓迎します。

【14】資本主義を改革する経済政策

・**設置責任者**：村上研一（中央大学分会）

・**連絡先**：murakami(at)tamacc.chuo-u.ac.jp ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

・**設置趣旨**：人びとの暮らしと福祉を向上させるためにも、さらには日本の経済を立て直すためにも、資本主義の原理に踏み込んだ改革が必要ではないか。そのための経済政策を立案していく時期に来ているのではないのか。改革の基本方向はあらゆる意思決定に人々の参加を拡大していくことではないか。こうした考えに基づいて、共著『資本主義を改革する経済政策』（かもがわ出版、2021年1月）を刊行した。本分科会では、同著の執筆者の報告と討論を通して、これからの経済政策のあり方、日本経済のあり方について議論していきたい。

【15】日本の食と農を考える

・**設置責任者**：西村一郎（個人会員）

・**連絡先**：info(at)nishimuraichirou.com ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

・**設置趣旨**：農家の高齢化や減少などで耕作放棄地がますます増え、日本の農業の国民的課題が広がる。食料自給率は最悪の37％となる中で、ゲノム編集のトマトを国が認可し市場に出ようとしている。国民の求める安心・安全・安定で地域に根差した食と農が、これまで以上に求められている。そうした日本の食と農の現状と課題について参加者と一緒に考える。

【16】コロナ危機と労働問題

・**設置責任者**：黒田兼一（明治大学分会）、米田貢（中央大学分会）

・**連絡先**：kuroken(at)meiji.ac.jp（黒田） ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

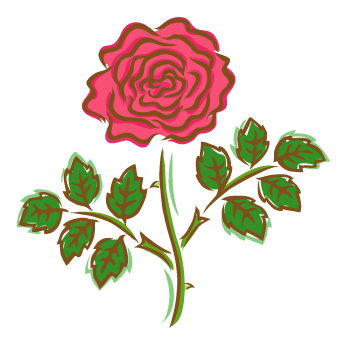
・**設置趣旨**：COVID19（新型コロナウイルス感染症）は私たちの生活を一変させた。それは人々の働き方をも直撃し、失業、賃金の切り下げ、在宅勤務（リモートワーク）、個人請負（雇用によらない働き方）の増加、さらにはワーク・ライフ・バランスの変容（長時間労働）を招いている。WHOは「在宅勤務が増え、経済が失速したことで、長時間労働とそのリスクが一層悪化している可能性がある」と警告している。

　この分科会では、これらまさに進行中のCOVID19災禍での働くことをめぐる実態とその問題点を議論し、その解決に向けた課題を明らかにする。

【17】あたらしい時代のJSA支部活動

・**設置責任者**：森原康仁（個人会員、専修大学）

・**連絡先**：ya.morihara(at)gmail.com ※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

・**設置趣旨**：全国大会や東京支部大会の決議でたびたび触れられているように、支部活動の強化は、JSAの活動をより魅力的なものにするうえでも、その規模を大きくするうえでも決定的な重要性をもつ。一方、JSA創立から50年以上がたち、現代にあわせた柔軟な活動スタイルを模索する取り組みも求められている。そこで、本分科会では、JSAの活動強化をめぐる豊かな経験に学び、将来を展望しうる機会を提供したい。

**３．分科会の発表者募集　10月5日までに設置責任者へ申込み**

３．分科会の発表者募集10月5日までに設置責任者へ申込み

**分科会への発表申込み：**

　設置責任者宛てに原則として電子メールで申し込み下さい。申込用紙は次ページにありますが、日本科学者会議東京支部ホームページ（http://jsa-tokyo.jp/）からもダウンロードできます。

**申込先：各分科会の設置責任者**（上記「２．分科会」にある設置責任者の「連絡先」欄を参照）

**発表申込みの締切日：10月5日（火曜日）＜厳守＞**

４．発表者の予稿提出　１０月２５日（月曜日）＜厳守＞

**４．発表者の予稿提出**

**形式**：**Ａ４判 2ページ以内**で、**テンプレートで形式を統一**します。（原則として Word 使用）統一形式 のテンプレートは、日本科学者会議東京支部のホームページにあります。

**送付先：21st-kagaku@jsa-tokyo.jp** 予稿ファイルをメールに添付下さい。

**予稿の提出締切日：１０月２５日（月曜日）＜厳守＞**

　※締切日を超えた場合、予稿の当該箇所は空白となりますので、十分にご注意下さい。

５．予稿集は電子媒体（PDF）と冊子〔有料〕で発行

**５．予稿集は電子媒体（PDF）と冊子〔有料〕で発行します**

予稿集はまず電子媒体で作成し、ウェブ上の資料留め置き場から参加者がダウンロードする形で必要な資料をダウンロードします。こちらは無料です。

紙媒体の予稿集が必要な人のために冊子も発行しますが、こちらは有料（実費＆送料で頒価は2000～3000円ほどの予定）となります。事前に実行委員会までお申し込みください。

６．開催日程と主な企画

**６．開催日程と主な企画**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 午前  10:00～12:15 | 午後Ⅰ  13:15～15:30 | 午後Ⅱ  15:45～18:00 |
| 11月27日（土） | 分科会１ | 開会式  特別報告Ⅰ  特別報告Ⅱ | |
| 11月28日（日） | 分科会２ | 分科会３ | 分科会４ |

　注）上記はシンポジウムの主要な企画の概要です。閉会式や新たな企画が加わるなど細部は若干変更になる可能性があります。

７．参加費は無料、募金にご協力を

**７．参加費は無料、募金にご協力を**

　オンライン開催とする今回の東京科学シンポジウムでは、これまでかかっていた様々な費用を削減できるため、参加費は無料とします。オンライン開催で費用は削減されますが、特別報告の講師謝礼、通信費、印刷・宣伝費等一定の共通費が必要です。これらは東京支部のシンポジウム開催予算と皆さまからの募金で賄う予定です。別途お願いする募金にご協力ください。

８．オンライン開催とは

**８．オンライン開催とは**

**(１）オンライン企画への参加方法**

　今回の東京科学シンポジウムの企画はこれまでと同じく予め決められたプログラムに沿って実施します。**オンライン・ソフトはZoomミーティング**を使用し、使用契約は実行委員会が行います。

１）参加希望者は、**事前に実行委員会ホームページで参加登録を行います。**参加登録が完了すると実行委員会は参加者に企画のURL（ウェブ上での接続先）を公開します

２）すべての**参加者は、自宅などから参加したい企画のURLにアクセス**して参加します。

３）司会者が進行を管理し、オンライン上で講演や報告、討論を行います。インターネットに接続できる情報機器（PCなど）があれば、オンラインで開催される企画に参加することはさほど難しくありません。

**※Zoom**の詳細**については、https://zoom.usをご覧ください。**

**（２）オンライン開催でできること**

１）報告者はPCのマイクを通じて音声で内容を伝えながら、同時に「画面共有」機能を使って、アクセスしている参加者にスライド（報告レジュメや資料など）を見せることもできます。

２）参加者は自分の情報端末（PCなど）を用いて、画像と音声で報告や講演を見聞きします。「画面の分割機能」を使って参加者の画像を見ることもできます。

３）参加者は、司会の指示に基づいてマイクで発言したり、チャット機能（文字入力）を使って意見を出し、討論に参加したりすることができます。

分科会の開設日時に、参加者（分科会設置責任者、座長、報告者を含む）が、各々自宅などから分科会URLにアクセスして、ウエブ上で報告と討論を行います。

実行委員会は、分科会の

オンライン開催を全面的にサポートします  
１）Zoomソフトの使用契約、オンライン開催の立ち上げは実行委員会が行います。

２）分科会の時間帯には、実行委員会の担当者が待機し、トラブル等に対処します。

サテライト会場など、多様な参加を

参加費無料を活用し、企画テーマに関心のある様々な人々（非会員も）を気軽に誘って下さい。各分会や職場・学園の会議室や会員の研究室・自宅などネット環境のある場所（サテライト）に複数名が集まれる場合は、複数名で１つのＰＣを共用する参加方法もあります。オンライン操作等に不慣れな人も参加しやすく、お薦めです

*今後のスケジュール*

**○９月10日** 2nd Circular発行  
（開設する分科会を公表。分科会発表者を募集）

**○9月中旬**参加登録受付開始、

（締切りは11月26日(金)正午）

**○10月5日** 分科会発表者の応募締切り

**○10月25日** 分科会発表者の予稿提出締切（期日厳守）

**○11月　４日** 予稿集冊子版の申込み締切り

**○11月10日** 3rd Circular発行  
（最終プログラムを公表。参加者を募集）

**○11月下旬** 予稿集発行　※電子ファイルをダウンロード

**○11月26日** 参加登録締切り

**○11月27日～28日** 第21回東京科学シンポジウム

※東京科学シンポジウムは東京支部の今年最大の企画であり、会員が日頃の研究の成果を発表する場でもあります。初めての方も歓迎します。会員の皆さん、どしどし分科会に発表を申し込みください。

**第 21回東京科学シンポジウム　分科会発表申込み用紙**

2021年　　月　　日　（受付月日：　　月　　日　受付番号：　　　　）

|  |  |
| --- | --- |
| （ふりがな）  **名　　前** |  |
| **住　　所** | 〒 |
| **連　絡　先** | e-mail：  Tel： |
| **希望分科会** |  |
| **タイトル** |  |
| **発　表　者　名**  （所属or肩書き） |  |

概要（200字～400字

|  |
| --- |
|  |

分科会発表の**申込みは**、原則として**設置責任者宛てに**電子メールで申し込み下さい。

その場合、日本科学者会議東京支部ホームページ（http://jsa-tokyo.jp/）から申込用紙をダウンロードして利用下さい。電子メールが不都合な場合は、実行委員会宛に、上記申込み用紙に記載の上、FAX（または郵送）を利用下さい。

**第21回東京科学シンポジウム実行委員会**

青木和光（支部常任幹事）、小尾晴美（支部幹事）、衣川清子（支部常任幹事）、葛谷泰慣（支部幹事）、〇佐久間英俊（支部事務局長）、堂野崎衛（支部幹事）、中島明子(支部代表幹事)、中西大輔（支部幹事）、中野貞彦（支部常任幹事）、真嶋麻子（支部幹事）、松永光司（支部幹事）、峰尾菜生子(支部常任幹事)、森原康仁（支部常任幹事）、吉村さくら（支部常任幹事）、◎米田貢（支部代表幹事）　 ◎：実行委員長、○：実行委員会事務局長

-------------------------------------------------------------------------------------

日本科学者会議東京支部 第21回東京科学シンポジウム実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9 階

Tel/Fax：03-3811-8281

e-mail：21st-kagaku(at)jsa-tokyo.jp

※メールを送る際は(at)を＠に代えてください

